

このニュースはFAXとメールで送信しています。地域民報への転載、各支部への配布にご活用下さい。

さっぽろ

市議団ニュース

2014 年 10 月 9 日

No.111

日本共産党市議団事務局発行
電話 211-3221 FAX218-5124

北1西1再開発事業 ——大成などゼネコン5社、不透明な選定ただす

伊藤りち子議員が質問

伊藤りち子議員は7日、決算特別委員会で北1西1再開発事業（2300人のホールや図書館、オフィスビルからなり、2019年度完成予定）について取り上げ、巨費を投じる同事業の受注企業が、計画段階から事実上決まっていたと疑われる実態をたどしました。

同事業の土地はもともと札幌市と明治安田生命、王子不動産が所有していましたが、大成建設など5社が王子から土地を買い、地権者となってこの再開発計画を進めてきました。

しかし、選考の段階で公募に応じたもう一方の清水建設は、途中で辞退届をだして受理され、選定の対象は大成など5社の共同企業体のみとなりました。

伊藤議員は、「清水建設が辞退することは最初から決まっていたのではないのか、辞退した理由を把握しているのか」とたどしました。**斎藤英幸事業推進担当部長**は、「辞退した理由は把握していない」とのべ、疑いは強まりました。

市営住宅の除雪支援事業の拡充、高層階からの

「住み替え」、要望に応えよ 井上ひさ子議員が質問

井上ひさ子議員は7日、高齢化がすすみ切実となっている市営住宅の除雪支援事業（高齢者などの除雪作業困難者が多い自治会へ助成する制度）について、基準を見直し拡充するよう求めました。

除雪支援事業の助成を受けているのは現在49自治会で、70歳以上の高齢者や重度の障がい者と空き家の戸数が1つの自治会当たり25%以上が条件です。

井上議員は、「高齢者が1人で朝4時、5時から起きて無理をして除雪したために倒れてしまった」などの事例を紹介し、「25%に達していないところでも大変な実態がある」と、基準の見直しを求めました。これにたいし、**入江二郎住宅担当部長**は「基準については妥当」と背を向けました。

また、エレベーターのない市営住宅で、高層階から低層階への「住み替え」がすすめられるよう求めました。**井上議員**は、「心臓病の高齢者が、医師から下の階に移るようにといわれたが抽選に当たると何年かかるかわからない」との訴えを紹介し改善を求めました。**入江部長**は、「住み替えすすめるためには住戸の確保が必要。ニーズの把握に努め検討したい」と答えるにとどまりました。